



千束地区自治会連合会 発行
 地域力推進千束地区委員会

編集長 土屋 光 一
 事務局 電話 3726-4441

わが町の防災

今後の防災を考える

北千束東自治会

青木 輝代

国内には、毎年大きな災害が起こっている。気候変動なのかどうか、千束地区は水害に対してはあまり心配はないが、最近では分らなくなっている。

避難所にしても、複合災害(コロナ感染症予防)が懸念されていて、分散避難、在宅避難、車中避難(エコノミー症候群に注意)と自由を選択して、ストレスが溜らない様にする(こと)と、言われている。

自治会でも防災訓練への参加者が少なく、どついたら身の安全を守るか、訓練を見物するだけでも違うのにと、いつも思うことは同じです。

スマホに頼る生活が身につい

ているので、なんでもスマホがあれば検索することが出来ると思っているのではないかと。実際に起こってしまった場合は、そうはいかないでしょう。自分達の防災を考えてほしい。



●避難時に持っていくもの (感染症対策)

体温計、マスク、アルコール消毒液 etc

●用意しておく良いもの

室内ばき、キッチンペーパー、ゴミ袋、タオルケット、毛布、防寒着、うちわ、小型扇風機 etc

それぞれの家庭に必要なものを揃えて用意して置くことが良いかもしれない。

事情が、その時々で変わるの

で、常に注意を払って、また自治会でも対応を考え、被害の少ない町にしていきたいと思っています。

地域の地形・地盤と我が家の防災対策

北千束北自治会

岸田 三好

今は新型コロナウイルスの収束が見通せない状況の中で、世間の関心はもっぱらコロナ禍に向いていますが、自然災害の豪雨や地震は、コロナ禍に関係なくいつ発生するか分かりません。特に首都直下型地震は必ずやってきます。このような大地震に対しては、私たちはどのような対策をおこなうべきか、私たちがどのようにならないのでしょうか？

私は現役時代、地質関連の部署に属していたため、自分が住んでいる地域の地形、地盤、活断層等についていろいろ調べてみました。

この千束地域の地形は標高20〜35mの台地に位置しており、

地盤は比較的締まった固い地層が存在しています。したがって、東京湾に近い蒲田などの低地の軟弱地盤に比べて、地震による揺れや液状化等の被害は少なく、津波の心配はないと考えています。また、この地域に影響を与えるような活断層の存在は確認されていません。

しかし、当地域は坂が多く坂の途中の住宅は、軟質な盛り土で擁壁が造成されている場合が多いと思われる。この様な住宅は大きな揺れに対して盛り土の崩壊に伴って住宅が崩れる可能性があるので、早めに工事会社とその対策を相談しておくことが望まれます。

それでは、この地域に震度6〜7という巨大な揺れが発生した場合に備えて、私たちは事前にとどのような防災対策をしておくことが必要でしょうか？

我が家の例でお話ししますと、退職後すぐに建物の耐震診断をしました。大田区から紹介された建築事務所を通して耐震

診断をしてもらったところ、基準値を下回っていることが判明したため、耐震補強工事をしました。これでひとまずは建物の崩壊に対しては今までよりは安全側になったと思っています。これらの診断や工事には大田区から助成金が出ました。

次は室内です。大地震が発生して、和ダンスや洋服ダンスなどの高い家具類にはすべて転倒防止器具を設置しました。また、これらの高いところには重いものは載せないようにしました。



また、電気による通電火災も指摘されています。そのため、ブレーカーに通電遮断器を設置しました。これは非常に簡単に取り付けられます。また安価です。

そのほか、空になったペット

ボトルに水を入れて庭の隅に置いてあります。もう50個以上になりました。これらは飲料水としては使用できませんが、洗濯用、トイレ用、お風呂用等いろいろに利用できると思っています。

皆さんも、いつ発生してもおかしくない大地震に備えて今から少しずつ備えをしておいてはいかがでしょうか？

わがまちの防災

千束西自治会

榎原 一夫

令和より千束西自治会は新役員のもとで防災活動を再開致しました。地球温暖化の影響により災害も多く、将来大規模災害も予測されております。被災された方々は、実際災害に直面したとき、とつさに適切な行動をとるのは大変難しいものだと言われます。こうした災害から身を守るためにも、日頃から防災活動に取り組む姿勢が必要にな

ります。

千束西自治会では防災は生き抜くための基本であると考え、市民消防隊の活動を、地域住民と連携し、放水体験やスタンドパイプの操作方法を直接指導するなど基礎的な活動を続けております。

一昨年11月17日に実施致しました防災訓練では、初期消火訓練、スタンドパイプ活用訓練、AED応急救護訓練等を行いました。地域住民が大勢参加され、「充実した時間を過ごすことが出来ました」との感想を頂きました。

昨年度は10月に防災訓練を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を考慮し中止と致しました。また、洗足池小学校での防災訓練は、新型コロナウイルスの新たな問題も発生しており、密にならないよう対策を考える必要があります。

今後、避難所の運営をどのようにするのか、防災活動拠点委員会の皆様と真剣に検討してま



いりたい。千束西自治会は防災設備として、D級ポンプ1台、スタンドパイプ2台、発電機2台等は一箇所にまとめて保管しておりますので月1回の点検も簡単にできます。恒例の歳末特別警戒は地元商店街と協力し多くの住民の参加を得て年越しの防災、防犯と安全を進めております。

自治会活動の要は、役員の信頼関係の構築と意思疎通にあると考えており、会員同士の和をもって自治会の歩みを進めて参りたいと考えております。

安全・安心の街へ

長原自治会
土屋 光一

地震に限らず、台風等、大規模な災害が発生した時、救出救助をはじめ、行政からの支援は私たちのもとにすぐには届きません。そのため、災害による被害を軽減するためには、自分や家族を守るための備えや行動をとる「自助」とともに、普段から顔を合わせている地域や近隣の人々が集まって、互いに協力し合いながら防災活動に取り組む「共助」が重要です。災害発生時はもちろん、平常時から私たちが一緒になって防災活動に取り組むことが重要となります。

ご存じのように、阪神・淡路大震災では、倒壊家屋の下敷きになって自力脱出できなかった人の約8割は家族や隣近所によって救出されております。このように日頃の近所のお付

き合いが必要となり、防災活動の基本は、防犯や、高齢者の見守り活動など、私たちの安全・安心を担保するための活動を日常的に行うことが大切ではないでしょうか？

見守り助け合いは、日常の近所付き合いを大切に広げていくことで「安全・安心の街」が築かれると思います。

長原自治会では今後、防災訓練に限らず日頃の近所のお付き合いを大切にし、発災時には地域の皆さんがお互いに助け合うことができるような地域を目指していきたいと考えます。

大田区では災害に対する危機意識を高め、災害時も適切な行動をとるために「震災編大田区防災地図」、「風水害編大田区防災地図」、「わが家の防災チェックBOOK」を「命を守る3点セット」として全戸に配布しております。今後は、このような資料を参考にしてあらためて防災について考えていきたいと思っております。

赤松小学校 改築工事状況

現在赤松小学校では、全学年が仮設校舎に移り授業が行われており、間もなく残された旧校舎の解体が始まります。



わたしの仲間

その12

東工大の 留学生達と大岡山

私はマテウシユ・ピシエク、東京工業大学留学生会、T-I-S-A (ティサ、Tokyo Institute of Technology International Students Association)の

のメンバーです。2014年にポーランドから来ました。

東工大には昔から外国人留学生が多く、2011年には全学生の約12%、現在では70を超える国から留学生が集まっており、1,700人を超えて、全学生10,300人の内約17%となり、国立大学の中では留学生が一番多い大学です。その中でも中国からの留学生が一番多く、中国人留学生で構成する「留学生会」もあり代表者はTISAでも活動しています。また、ポーランドからは私を含めて3人がTISAのメンバーとして活動しています。外国人から見れば、東工大は世界でもとても有名な大学です。最近では東工大の大隅先生のノーベル賞受賞が世界中で話題になりました。世界には東工大に留学したい学生はたくさんいます。私は東工大で勉強できてとても恵まれていると思います。

大岡山キャンパスの近くにある商店街では、合同で毎年3月

下旬に「大岡山さくらまつり」のイベントを行っています。私たちTISAはこのイベント開催中に商店街の事務所の会議室をお借りして、「外国語教室」を開催しております。東工大の留学生が英語の先生として、遊びながら近隣の3つの小学校の生徒さんたちに英語を教えます。「外国語教室」開催に際しては、私たち留学生と商店街の役員の皆さんと大田区役所の職員の方々と打合せを行い、歌、遊び、クイズ、単語とフレーズのリスト、色鉛筆、おもちゃ等を準備します。当日は、英語のみを勉強するより、子どもたちが楽しむことを中心に教室を行います。面白さは大事ですが、やはり安全が第一です。賑やかになっても、遊んでいる子どもたちが絶対怪我しないように気を付けています。私の経験からすれば、生徒さんたちは毎回とても盛り上がっています。

また、想像を超える英語能力を表現する子もいる一方で、静

かであまり喋らない子もいます。それぞれの子どもの力に合わせ遊び方を選び、皆さんが楽しい時間を過ごせるように頑張りました。子どもたちが楽しんでくれると、私たちもとても嬉しいです。

しかし、残念ながら、この「大岡山さくらまつり」は去年も今年も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止されています。私たちは機会があれば是非このようなイベントにまた参加したいと思っています。



編集後記

三密、ソーシャルディスタンス、クラスター、スナイホーム…。昨年の正月は全く口にすることもなかったこれらの言葉が、今や私達の生活習慣となることを去年の今頃、誰が予想したのだろうか？

ワクチンが開発されるも、東京都のコロナ感染者数は二二〇〇を記録し、収束の兆しは全くみえない。手洗いマスク、三密を避けると言った我々に出ることを続けることで、草の根レベルの防災を行うしかないだろう。二〇二二年の新年には、コロナが思い出話となっていることを願うばかりだ。

H・I 記

千束地区管内の数字

人 口	男	11,575人
	女	13,192人
	計	24,767人
世帯	13,557世帯	

令和3年4月1日現在